

# 令和元年度ジュニア・リーダー中級研修会

## 1 趣旨

- 子ども会活動及び地域社会の振興を図るため、子ども会活動の支援や地域活動を行う年少リーダー（ジュニア・リーダー）を育成する。
- ジュニア・リーダーとして必要な知識・技能・態度を身に付けさせ、ジュニア・リーダー活動への実践力を高めさせる研修を行う。

2 開催期日 令和元年7月13日（土）～14日（日） 1泊2日

3 会場 宮城県蔵王自然の家

- 4 対象
- 市町村教育委員会の推薦する中学2年から高校生
  - ジュニア・リーダー初級研修修了者（初級研修修了後10時間以上の活動実績が必要）
  - ★令和元年度参加者29名（高校生9名・中学生20名）

## 活動の様子



所長あいさつ



MAP研修 協力して！



グループ研修



レクゲームで盛り上がる



キャンドルサービス



集中した真剣なまなざし



雨の中の野外研修（自然体験）



館内ウォークラリー作成



「がんばった！」

## 参加者の声（一部抜粋）

- 今回の研修で学べたことは、講義を通して「へえ～そうなんだ」と理解することとても大切かもしれませんが、それを仲間である自分たちの市町の JL に説明して、より一層活発に JL の活動をしていくことが、今後の目標だと思いました。
- 今回の研修で1番思い出に残っているのは、スタントの劇です。日頃私たちが取り組むスタントでは、ダンスとかレクをしていたので、スタントで劇をするのは初めてで、内容を考えるのがとても難しかったです。（中略）突然のハプニングでも、アドリブなどで対応できるみんなはすごいと思いました。私も対応できるようになりたいと思いました。
- 僕はこの2日間を通してジュニア・リーダーとしての考え方が変わりました。今まではサマーキャンプやクリスマス会などで、大人から言われたことしかしなかったし、振り返りもあまりせずにいました。子どもと共に僕自身も成長するということを考えていませんでした。しかし、研修をうけていく中で、ジュニア・リーダーとしての大切にしなければならない資質や能力がたくさんあることがわかりました。  
ジュニア・リーダーは今まで子供達のサポート役だ。という考えでいましたが、「ダブル・ゴール」を目指すという点から自分自身もチャレンジをしたり、子供達にチャレンジさせたりしながら互いに成長していきたいと思いました。  
クリスマス会やいろいろなプログラム作成の際にも、リスクマネジメントや 5W2H、特に予算はいくらで？（How Much）など、僕の考えにはなかったまた新しい考え方が増えたとても貴重な経験の場となりました。
- この2日間は、ジュニア・リーダーとしての意義や自覚を改めて確認できる研修になりました。地域を愛し、子どもと共に伸びるなどのジュニア・リーダー像に少しでも近づいていたらいいなと思います。スタントやプログラム作成は今までははっきりとした意味がわからず、取り組んできましたが、今回その意味を知り、今後はただやるだけではなく、活動の意味を考えながら行いたいです。
- これからの時代、少子高齢化が進み、子どもの人数が減っていくと思います。でもジュニア・リーダーが活動することで、子供達が楽しみながら成長してほしいです。今回自分が学んだことを生かし、これからの世代、後輩達に伝えていこうと思います。
- たくさんの学びがありましたが、私は「どういうジュニア・リーダーであるべきか」という事を考えるきっかけになったのは、とても大きな学びになりました。3年前に JL になってからずっと「JL は子供達のお兄さん、お姉さんの存在」としか思っていませんでした。そして、ただなんとなくをこなしていたので、自分の欠点や何が足りないのかなどを考えたことがありませんでした。この研修では自分の改善点を考えることができました。JL は責任感、計画性、積極性などが大切なので、それらを意識し、子どものよき理解者、そして町の活性化に貢献できるような JL になりたいと思います。
- 今回の講義では「視点」という言葉をよく考えさせていただきました。特に「野外活動が好きな人はジュニア・リーダーとしてとても大切なことだし、良いリーダーだと思うよね。でもね、実は子供達の中にも野外活動が嫌いな子がいる。その野外活動が嫌いな人の気持ちは、野外活動が嫌いな人にしかわからない。共感できるということはとても大切なことなんだよ。だから、素直に野外活動が苦手だという人も子どもに寄り添うことができるからとても大切なリーダーなんだよ」という話が印象的でした。自分はこれまで「自分と違う考えの人はどんな気持ちなんだろう？」と考えながら行動できていたのかを考えてみましたが、まだまだ足りないと思います。また「雨」に対して「残念」という気持ちではなく「恵みの雨」と捉えることで、自然に感謝の気持ちが芽生えて学べることが増えました。